

説教題：地引網の譬えと説き明かし(47～50)

聖書:マタイ 13章47～50節

<口語訳>

新約聖書22～頁

マタイ 13章47～50節

<新共同訳>

新約聖書26～ 頁

マタイ 13章47～50節

<新改訳第3版>

新約聖書27～ 頁

マタイ 13章47～50節

<塚本訳>

新約聖書109～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト**様の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ13:47～50節**の「**地引網の譬えと説き明かし(47～50)**」から「**神(天)の国**」について、**神**に聴きます。
- ⇒「**地引網の譬え**」は、49節のみことばのように世の終りの選別です。
- ⇒選別の基準である正しさは、**神の正しさ**です。
- ⇒天使によって、地引網の収穫は、選別されますが、**神の心**に忠実です。「悪いもの」は、燃える炉の火に投げ込まれ、歯ぎしりするのです。
- ⇒「**毒麦の譬え**」のように、収穫物の中には、良い物と悪いものが、混ざっているのです。
- ⇒**譬え**の「**神(天)の国**」は、**神と神の民**がともに歩む生活を現していますので、「**悪魔・悪霊**」が、悪いものを入れて来るのです。
- ⇒教会にも、「**悪魔・悪霊**」は、悪を投げ込みます。

本論；

◇本日、**マタイ書13:47～50節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ13章47～50節**；使徒**マタイ**は、「**地引網の譬え**」を通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」が、示されていると、あかししています。

◇**13:47～50節**；塚本訳◆
地曳網の譬

「47 さらに、天の国は地曳網を海におろしてあらゆる種類(の魚)を取るのに似ている。

48 網が一ぱいになると岸に引き上げ、坐って、良いのは集めて入れ物にいれ、わるいのは投げすてるのである。

49 世の終りもそれと同じであろう。すなわち天使たちがあらわれ、義人の中から悪人どもを引き出して、

50 火の燃える炉に投げ込み、彼らはそこでわめき、歯ぎしりするであろう。と、**使徒マタイ**は主のことばを語ります。

◇**マタイ13:47～50節**；「さらに、天の国は地曳網を海におろしてあらゆる種類(の魚)を取

るのに似ている(47)」、「網が一ぱいになると岸に引き上げ、坐って、良いのは集めて入れ物にいれ、わるいのは投げすてるのである(48)」、「世の終りもそれと同じであろう。すなわち天使たちがあらわれ、義人の中から悪人どもを引き出して(49)」、「火の燃える炉に投げ込み、彼らはそこでわめき、歯ぎしりするであろう(50)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**地引網の譬え**」でも、良いものと悪いもの選別があることを示しておられます。

⇒しかし、気をつけることは、**神**が世の終りに選別されるのであって、人が勝手に選別することではありません。

⇒寧ろ、「**神の正しさ**」に、心をとめることです。**マタイ13:52**で、「学者」ということばが、出ていますが、基本的意味は、「学ぶ者」、「学びたい者」です。当時は、律法学者があり、聖書を自由に語ることができました。

⇒しかし、主は、「**神(天)の国**」について、弟子たちに語っておられたので、一般的学者ではなく、「**御子イエス・キリスト様の中の神の真理・真実**」を学び、聴き従うことでした。

- ⇒**織田昭師**が、語っておられるように、主を真実に信じ、主にお従い心を持っている者が弟子であり、主に聴きしたいと願っているのです。
- ⇒「**神(天)の国**」は、**神のご支配**です。「**譬え**」は、人の目に隠されている「**神(天)の国**」と示されるものですから、素直に主に聴き、信頼と愛と期待をもって向き合いう者には、見えて来るものなのです。霊のものは、霊で見えるものだからです。
- ⇒**加藤常昭師**が、語っておられるように、**神への信仰**を持って生きる者には、**神**が常に共にいて下さることが霊の目を通して見え、真実込めて祈れるのです。
- ⇒一般社会でも、誠実でない態度と姿勢は、相手には分かるのです。
- ⇒祈りも、長短より、心がこもったものを**神**がお求めのものですし、人の会話でも、同じです。
- ⇒「**地引網の譬え**」も、他の**譬え**同様、主の働きを意味します。
- ⇒主の地上の働きは、働きの場所も、年月の小さいものです。今、主の働きは、無視できない広がりを持っています。

- ⇒私たちの心にも、「**悪魔・悪霊**」は、悪いもの、主のお喜ばれない思いを投げ込みます。不安にさせます。私には、悪を行う思いはないと言い聞かせたりもします。
- ⇒しかし、悩む必要はありません。罪は今も、私たちを支配していますが、生ける神にあって、私たちは死に、**御子イエス・キリスト様への信仰**によって、生かされているからです。頑張ったり、気張ったりせず、ただただ、罪赦された恵みを讃美しましょう。
- ⇒**地引網**の魚を一杯にして下さるのは、主ですし、食用にならない魚を選別して、火の燃える炉に投げ入れるにも、主です。
- ⇒私たちのすべきことは、網の大きさでもなく、収穫の多い、少ないに一喜一憂して思い煩うことでもありません。
- ⇒教会の大小も、人材の有り無しも、主の前には、関係ありません。僅かの魚とパンで、主は、4,000人、5,000人を養うお方です。
- ⇒必要なのは、「主の用なり」で、主が求められたことを忠実に行うことです。
- ⇒結果より、感謝、讃美、祈りです。

⇒教会にも、私の心にも、食用に供しないものが、
混ざり込み、自分も、他の人も、傷つけて
います。

⇒【口語訳】 ロマ 7:4

わたしの兄弟たちよ。このように、あなたがたも、
キリストのからだをとおして、律法に対して
死んだのである。それは、あなたがたが他の
人、すなわち、死人の中からよみがえられた
かたのものとなり、こうして、わたしたちが神の
ために実を結ぶに至るためなのである。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日はマタイ13:47～50節の「**地引網の譬えと説き明かし(47～50)**」から「**神(天)の国**」について、**神**に聴きます。

⇒「**地引網の譬え**」は、49節のみことばのように世の終りの選別です。

⇒選別の基準である正しさは、**神の正しさ**です。

⇒天使によって、地引網の収穫は、選別されますが、**神の心**に忠実です。「悪いもの」は、燃える炉の火に投げ込まれ、歯ぎしりするのです。

⇒「**毒麦の譬え**」のように、収穫物の中には、良い物と悪いものが、混ざっているのです。

⇒**譬え**の「**神(天)の国**」は、**神と神の民**がともに歩む生活を現していますので、「**悪魔・悪霊**」が、悪いものを入れて来るのです。

⇒教会にも、「**悪魔・悪霊**」は、悪を投げ込みます。

⇒【口語訳】 ルカ 10:19

わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。